

臨床検査で遭遇する異常蛋白質 基礎から発見・解析法まで

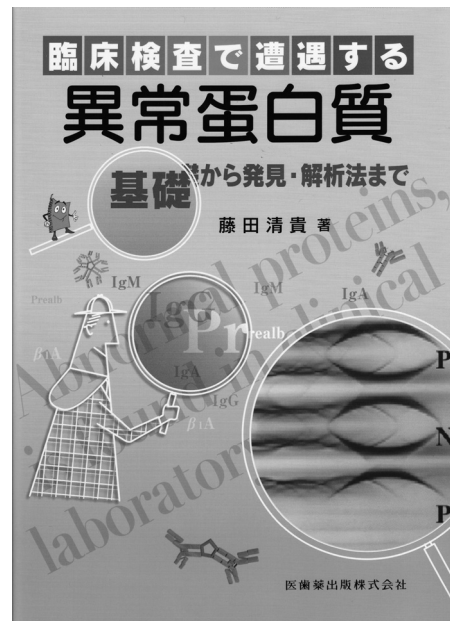
著者：藤田清貴

154 頁，定価(4,400 円+税)

出版社：医歯薬出版株式会社 2010 年発刊

本書は、著者の藤田清貴先生(千葉科学大学大学院教授)の25年間の異常蛋白質に関する臨床研究ならびに10年間の信州大学における研究成果のエッセンスをまとめあげた著書である。私は、是非とも医療機関の臨床検査室はもとより臨床検査技師教育機関の臨床化学・免疫学の教員の参考図書として推薦したい。血清蛋白質に関する著書はこれまでもいくつか出版されているが、血清蛋白質特に免疫グロブリンの基礎に加えて実際に、著者らが一流の国際学術雑誌へ投稿された多数の酵素アノマリーや異常蛋白質の症例を題材に懇切丁寧に解析手法を解説したものとしては初めての専門書である。

本書の構成としては大きく基礎編と実例編の2つに分かれている。基礎編では発見のための基礎知識として血清蛋白質に関する理論的基礎および分離分析法が解説されている。実例編ではこれまで著者らが報告してきた多彩な数多くの稀な症例の解析を追体験できるような解説となっている。これらの記載のなかで特に目を見張るものは、多数のオリジナルな図表である。適材適所に藤田先生ならではの大変綺麗な図が、本文はもとより「一口メモ」等に挿入されており読みやすく理解の助けになっている。文字通り臨床蛋白質化学の座右



の書として、初心者から専門家の先生方にも推薦したい。

(森山隆則：北海道大学大学院保健科学研究院
病態解析学分野 moriyama@hs.hokudai.ac.jp)